

2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年10月31日

上場会社名 積水化成工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4228 URL <http://www.sekisuiplastics.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柏原 正人
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 佐々木 勝巳 TEL 03-3347-9618
 コーポレート戦略本部長
 四半期報告書提出予定日 2019年11月14日 配当支払開始予定日 2019年12月4日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（証券会社アナリスト、機関投資家ファンドマネージャー）

（百万円未満切捨て）

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	69,956	28.2	2,057	7.2	1,780	△8.6	1,187	△9.7
2019年3月期第2四半期	54,570	△0.2	1,918	△29.7	1,947	△28.7	1,315	△26.7

（注）包括利益 2020年3月期第2四半期 778百万円（△30.2%） 2019年3月期第2四半期 1,115百万円（△64.0%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	26.22	—
2019年3月期第2四半期	29.05	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	149,593	66,974	43.7
2019年3月期	153,491	66,960	42.5

（参考）自己資本 2020年3月期第2四半期 65,297百万円 2019年3月期 65,193百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	13.00	—	17.00	30.00
2020年3月期	—	13.00	—	—	—
2020年3月期（予想）	—	—	—	17.00	30.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	145,000	28.8	4,900	2.4	4,800	0.5	3,200	2.3	70.65

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期2Q	46,988,109株	2019年3月期	46,988,109株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	1,697,493株	2019年3月期	1,696,864株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期2Q	45,290,905株	2019年3月期2Q	45,291,761株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(企業結合等関係)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日)の世界経済は、中国経済の減速や米国・中国の貿易摩擦の深刻化、中東における地政学リスクの高まり、長期化する英国のEU離脱問題等先行き不透明な状況が続いています。日本経済におきましては、輸出や生産の弱さが続いているものの、雇用・所得環境の改善が続く中、緩やかな回復基調で推移しています。日本の発泡プラスチック業界におきましては、原油価格の動向や物流コストの上昇などにより厳しい経営環境が続きました。また、大型台風などの相次ぐ自然災害の影響や消費増税による消費マインドへの影響も懸念されます。

このような経営環境のなか、当社グループは前中期経営計画で取り組んだ変革を更に強化すべく、2019年度からの3カ年中期経営計画「Make Innovations Stage-II」を策定し、「事業ポートフォリオの変革」と「収益体質強化に向けた戦略の実行」を進化させるとともに、環境リーディングカンパニーの位置づけを確固たるものにするため、施策を着実に推進しております。また当第2四半期連結会計期間には、前期に買収しましたProseatグループの2019年1月1日から6月30日までの6カ月間の業績を含めております。その結果、売上高は699億5千6百万円(前年同期比28.2%の増加)、営業利益は20億5千7百万円(前年同期比7.2%の増加)、経常利益は17億8千万円(前年同期比8.6%の減少)、親会社株主に帰属する四半期純利益は11億8千7百万円(前年同期比9.7%の減少)となりました。

以下、各セグメントの業績は次のとおりであります。

<生活分野>

生活分野の売上高は289億8千2百万円(前年同期比6.8%の減少)、セグメント利益は15億5千6百万円(前年同期比28.7%の増加)となりました。

食品容器関連は、第1四半期後半からスーパーやコンビニエンス向けなどの需要に盛り上がりや欠く状況となりました。また農産関連は堅調に推移しましたが、水産関連は、漁獲量の減少により需要低迷が続きました。一方、建材・土木関連では、競技施設やそれに付随する建築・道路工事など、主に首都圏での物件獲得が寄与し好調に推移しました。

主力製品である「エスレンシート」(発泡ポリスチレンシート)の売上数量は、汎用食品容器向けは堅調に推移しましたが、前期に好調であった電子レンジ加熱に対応した耐熱食品容器向けやカップめん容器向けの伸長が一巡し前年同期並みとなりました。「エスレンビーズ」(発泡性ポリスチレンビーズ)の売上数量は、盛土用途の需要が好調だったものの、その他の需要は総じて低調となり、前年同期並みとなりました。利益面では、前年同期は原材料価格高騰の影響を受け、価格改定に時期ずれが生じ悪化しましたが、徹底したコスト削減や価格対応に取り組んだ結果、前年同期に比べ増加しました。

土木関連資材の「アクアロード」は局地的な集中豪雨の際、雨水を道路下などに一時的に貯める樹脂製貯留浸透槽として使われる構造部材です。2019年8月に開催された「下水道展'19横浜」など、展示会にも積極的に出展しており、豪雨発生時の冠水・浸水被害の軽減や河川の氾濫抑止といった災害対策に貢献していきます。

<工業分野>

工業分野の売上高は409億7千4百万円(前年同期比74.5%の増加)、セグメント利益は8億6千6百万円(前年同期比21.4%の減少)となりました。

家電・IT関連では、「ピオセラン」(ポリスチレン・ポリオレフィン複合樹脂発泡体)などを用いた液晶パネル搬送資材用途において、北東アジアで伸長し前年同期を上回りました。一方、「テクポリマー」(有機微粒子ポリマー)は、液晶パネルなどの光拡散用途において、在庫調整の影響が継続し、前年同期を下回りました。自動車関連では、「ピオセラン」などを用いた部材用途において、国内での堅調な推移に加え、グローバルでも採用が拡大しました。医療・健康関連では「テクノゲル(ST-gel)」(機能性高分子ゲル)は、貿易摩擦などの影響を受け低調に推移しましたが、「エラストイル」(熱可塑性エラストマービーズ発泡体)は、ランニングシューズのミッドソールの量産が開始され、新規モデルの採用も進み売上が伸長しました。Proseatグループについては欧州自動車メーカーの販売不振などの影響を受け低調に推移しました。

自動車や輸送機器市場では、省エネルギーや二酸化炭素排出量低減のため、構造部材として適用可能な高耐熱、高強度かつ軽量化に寄与する樹脂素材が求められております。当社はこの要求に応える発泡体の開発に取り組み、従来のビーズ発泡体の耐熱温度である80℃~100℃を超える、耐熱120℃に向上させたグレードの量産化技術を確立しました。今後は、「ST-Elevat」としてブランド展開し、高温となる部位で実用化を進め、耐熱120℃以上のラインアップを拡充させていきます。

また、当社は地球環境の新たな課題である海洋プラスチックごみ問題の解決に向けて、生分解性に優れたプラスチックの開発等を進めており、自然環境で分解される生分解性微粒子「テクポリマー」EFシリーズを開発しま

した。自然環境保全の観点から化粧品用途、塗料用途など、さまざまな用途への展開をはかることも含め、環境リーディングカンパニーとして積極的に貢献していきます。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、1,495億9千3百万円（前連結会計年度末比38億9千8百万円減）となりました。資産の部では、現金及び預金、受取手形及び売掛金の減少などにより流動資産が69億3千1百万円減少しました。また、有形固定資産の増加などにより固定資産が30億3千3百万円増加しました。負債の部では、支払手形及び買掛金の減少や短期借入金の返済などにより、流動負債が98億6千3百万円減少し、固定負債は長期借入金の増加などにより59億5千1百万円増加しました。純資産は、利益剰余金の増加などにより、1千4百万円増加して669億7千4百万円となり、自己資本比率は43.7%となりました。

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況については、営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務の増減額の影響などにより、前年同期に比べ5億9千9百万円収入が減少し、17億3千3百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出の減少などにより、前年同期に比べ15億9千万円支出が減少し、25億9百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の純増減額の影響や長期借入金の返済による支出の増加などにより、前年同期に比べ48億8千4百万円支出が増加し27億3千5百万円の支出となりました。この結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は、前連結会計年度末に比べ38億4千2百万円減少し、74億2千8百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年4月24日に公表しました2020年3月期連結業績予想からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,278	7,436
受取手形及び売掛金	32,915	29,869
電子記録債権	3,541	3,752
商品及び製品	7,937	8,048
仕掛品	1,840	2,181
原材料及び貯蔵品	4,094	3,745
その他	3,279	2,915
貸倒引当金	△60	△54
流動資産合計	64,826	57,895
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	17,348	17,083
機械装置及び運搬具(純額)	16,556	17,352
土地	21,176	21,183
その他(純額)	5,183	7,283
有形固定資産合計	60,265	62,902
無形固定資産		
のれん	1,585	1,447
その他	2,325	2,211
無形固定資産合計	3,911	3,658
投資その他の資産		
投資有価証券	17,653	18,156
退職給付に係る資産	5,163	5,325
その他	1,726	1,707
貸倒引当金	△55	△52
投資その他の資産合計	24,488	25,137
固定資産合計	88,665	91,698
資産合計	153,491	149,593

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	19,153	16,357
電子記録債務	8,346	7,348
短期借入金	17,690	12,515
未払法人税等	990	508
賞与引当金	1,056	1,030
役員賞与引当金	29	13
その他	8,997	8,625
流動負債合計	56,264	46,400
固定負債		
長期借入金	17,540	21,943
退職給付に係る負債	3,212	3,317
製品補償引当金	190	166
その他	9,323	10,790
固定負債合計	30,266	36,218
負債合計	86,531	82,618
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,533	16,533
資本剰余金	16,532	16,532
利益剰余金	22,560	22,985
自己株式	△1,425	△1,426
株主資本合計	54,200	54,625
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,799	9,156
土地再評価差額金	1,479	1,479
為替換算調整勘定	190	△362
退職給付に係る調整累計額	524	398
その他の包括利益累計額合計	10,992	10,672
非支配株主持分	1,766	1,676
純資産合計	66,960	66,974
負債純資産合計	153,491	149,593

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	54,570	69,956
売上原価	41,946	54,633
売上総利益	12,624	15,323
販売費及び一般管理費	10,705	13,266
営業利益	1,918	2,057
営業外収益		
受取利息	2	3
受取配当金	169	171
為替差益	33	—
その他	51	85
営業外収益合計	257	260
営業外費用		
支払利息	89	195
持分法による投資損失	0	6
為替差損	—	147
その他	138	187
営業外費用合計	228	536
経常利益	1,947	1,780
特別利益		
投資有価証券売却益	79	—
特別利益合計	79	—
特別損失		
災害による損失	31	—
投資有価証券評価損	—	8
特別損失合計	31	8
税金等調整前四半期純利益	1,995	1,771
法人税等	678	626
四半期純利益	1,316	1,145
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	1	△42
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,315	1,187

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	1,316	1,145
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△79	357
為替換算調整勘定	72	△597
退職給付に係る調整額	△193	△126
その他の包括利益合計	△200	△366
四半期包括利益	1,115	778
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,114	775
非支配株主に係る四半期包括利益	1	3

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,995	1,771
減価償却費	2,100	2,934
のれん償却額	10	85
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△3	△6
受取利息及び受取配当金	△172	△175
支払利息	89	195
持分法による投資損益 (△は益)	0	6
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△49	△26
製品補償引当金の増減額 (△は減少)	△41	△24
退職給付に係る資産負債の増減額	△410	△234
投資有価証券売却損益 (△は益)	△79	—
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	8
有形固定資産除売却損益 (△は益)	33	22
売上債権の増減額 (△は増加)	2,335	2,371
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△394	△292
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,632	△3,289
その他	△539	△782
小計	3,243	2,564
利息及び配当金の受取額	172	175
利息の支払額	△109	△251
保険金の受取額	2	8
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△975	△762
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,332	1,733
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△4,276	△2,986
有形固定資産の売却による収入	23	12
投資有価証券の取得による支出	△2	△4
投資有価証券の売却による収入	125	—
貸付けによる支出	△3	△0
貸付金の回収による収入	18	430
その他	13	37
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,099	△2,509
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,185	△2,559
長期借入れによる収入	6,952	5,966
長期借入金の返済による支出	△2,766	△3,894
配当金の支払額	△677	△769
非支配株主への配当金の支払額	△2	△2
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△58	—
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	—	△1,246
その他	△112	△230
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,149	△2,735
現金及び現金同等物に係る換算差額	26	△331
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	409	△3,842
現金及び現金同等物の期首残高	5,117	11,271
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,527	7,428

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(IFRS第16号「リース」の適用)

国際財務報告基準を適用している在外子会社は、第1四半期連結会計期間より、国際財務報告基準第16号「リース」(以下「IFRS第16号」という。)を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。IFRS第16号の適用については、経過的な取扱いに従っており、会計方針の変更による累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に計上しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において有形固定資産が2,792百万円、流動負債が378百万円、固定負債が2,434百万円それぞれ増加しております。当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。また、当第2四半期連結会計期間の期首における利益剰余金に与える影響は軽微であります。

(企業結合等関係)

企業結合に係る暫定的な会計処理の確定

2019年2月19日に行われたProseatグループとの企業結合について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、当第2四半期連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されており、のれんとして計上していた金額の一部を組み替えております。

この結果、暫定的に算定されたのれんの金額2,100百万円は、会計処理の確定により566百万円減少し、1,533百万円となっております。また、前連結会計年度末の無形固定資産のその他は1,213百万円、固定負債のその他が457百万円、非支配株主持分が188百万円それぞれ増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

- I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	生活分野	工業分野	計		
売上高					
外部顧客への売上高	31,090	23,480	54,570	—	54,570
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,696	684	2,381	△2,381	—
計	32,787	24,165	56,952	△2,381	54,570
セグメント利益	1,209	1,102	2,311	△364	1,947

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△364百万円には、セグメント間取引消去△6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△357百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. 各セグメントに属する主要な製品の名称

- ・生活分野—— エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、
これら成形加工品、ESダンマット、エスレンブロックなど
- ・工業分野—— ピオセララン、ライトロン、ネオマイクロレン、セルペット、テクポリマー、テクノゲル、
テクヒーター、エラスティル、フォーマック、ST-LAYER、これら成形加工品など

- II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	生活分野	工業分野	計		
売上高					
外部顧客への売上高	28,982	40,974	69,956	—	69,956
セグメント間の内部売上高 又は振替高	333	81	414	△414	—
計	29,316	41,055	70,371	△414	69,956
セグメント利益	1,556	866	2,423	△642	1,780

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△642百万円には、セグメント間取引消去△0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△642百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. 各セグメントに属する主要な製品の名称

- ・生活分野—— エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、
これら成形加工品、ESダンマット、エスレンブロックなど
- ・工業分野—— ピオセララン、ライトロン、ネオマイクロレン、セルペット、テクポリマー、テクノゲル、
テクヒーター、エラスティル、フォーマック、ST-LAYER、これら成形加工品など